

Weekly Report

ROTARY CLUB OF NAGOYA MIZUHO

創 立：1980年(昭和55年)1月10日
会 長：松波 恒彦
幹 事：平野 好道
クラブ委員長：大嶽 達郎
例 会 日：毎週木曜日PM12:30～
会 場：ヒルトン名古屋

事 務 局：460-0008
名古屋市中区栄1丁目3-3 ヒルトン名古屋910号
T E L：052-211-3803
F A X：052-211-2623
M A I L：2760_nagoya@mizuho-rc.jp
U R L：http://www.mizuho-rc.jp/

第1561回例会

～会員増強及び拡大月間～
クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2012年8月2日(木) 晴 第5回

司 会：渡辺喜代彦会場委員
齊 唱：「君が代」「奉仕の理想」
ゲ ス ト：東名古屋画像診断クリニック 健診営業課
清水勇樹さん
東名古屋画像診断クリニック 健診営業課課長
中田 勝さん
ビ ジ タ ー：西川達郎さん(名古屋名駅RC)
小嶋洋一さん(東海RC)

副会長挨拶

西本哲副会長

祇園祭は平安時代中期頃、悪い霊を閉じ込め、川に流し、京都を平穏にするための行事から始まりました。そして平安時代末期、仏教思想の中に出てくる『祇園精舎』の荒々しい守護神『牛頭天王』を祀る『祇園社』が建立されました。同じ頃、後に祇園祭となる『祇園御霊会』が徐々に定着していきました。近世まで祇園社と呼ばれていましたが、明治時代に『八坂神社』と名前が変わっています。牛頭(ごず)天王も神仏分離の考えから、日本古来の荒々しい神『スサノオノミコト』と同一視され、スサノオノミコトを祀るようになりました。祇園祭は7月17日から始まります。今では山鉦巡行が目立ちますが、元々山鉦は神像を乗せた御輿の先導役を務めていたものです。鉦は空を飛び悪霊を地上に降ろし、捕まえるためのものだったので、鉦の先には必ず先の尖ったきらきらと光る金属の部品が付いています。そして山の先には松の木が付けれ、鉦の周りで音を鳴らし踊ることで、悪霊に「何か楽しそうなことをやっている」と思わせて、地上に呼び寄せる役割を果たします。1966年からは1度に多くの観光客に来て頂けるよう、1回しか行わなくなった山鉦巡行ですが、かつては『前祭(さきのまつり)』『後祭(あとのまつり)』の2回に分かれていました。前祭では神様が御輿に乗り、八坂神社から御旅所へ巡行し、一週間後に御旅所から八坂神社へ戻る時の巡行を後祭と呼んでいました。全部で33ある山鉦の内、7月17日の先祭では1～23番まで、7月24日の後祭では24～33番が巡行したそうです。山鉦は昔は鉦鉦や傘鉦と呼ばれる小さなものを持って、巡行しました。南北朝～室町時代、日明貿易によって日本の経済が非常に潤い、儲けた商人(町衆)たちが競ってペルシャ絨毯や西陣織などをしつらえ、より豪華に、より華美にと段々と大きくなっていったそうです。現在の鉦は高さ25m、重さ12tという大きさと、4畳半ほどの広さの中に40名が乗っているそうです。

祇園祭は女人禁制で、女性が山鉦の上に上がることはできません。女性の血は不浄なものとする『血盆経』という仏教の教えと、比叡山延暦寺の女人禁制が合わさった考えです。同様に現在でも大相撲の土俵上に女性は上がられません。太田房江元大阪府知事が在任中に知事杯を渡す時、土俵に上がることを相撲協会は「伝統と土俵は男の空間なので女性は入れない」として断りました。瑞穂RCでも会員増強のため、女性の入会もこれから色々話し合われるでしょう。これも1つの時代の流れだと思えます。



8月誕生日おめでとう

江口 金満さん 鶴田 浩さん 大島 浩嗣さん
佐藤 善乙さん 山田 鎮浩さん 広瀬 弘幸さん

出席者表彰

近藤茂弘さんが通算5年100%出席で副会長からバッジを贈呈されました。



ニコボックス

梅村昌孝ニコボックス委員長

- ・来週、夏休みを頂きます。欠席をしますが、よろしくお願いします。
神田 広一さん
- ・本日、早退します。
八木沢幹夫さん
- ・本格的に暑くなってきました。この暑さを喜ぶのは、鰻屋ぐらいいでしょうか？
鈴木 淑久さん
- ・本日は清水さんの卓話が聞けず残念です。ウィークリーを読ませて頂きます。
松波 恒彦さん
- ・暑中お見舞い申し上げます。
野崎 洋二さん
- ・パスト・プレジデントの高村さんが出席・ニコボックスに座ってみたいので、素通りができません。
遠山 堯郎さん
- ・暑さが続きます。呉々も熱中症に注意されたし。「ノド」の乾きを感じたら、もう遅い！
高村 博三さん
- ・今月8日は妻の誕生日です。体は元気に！口は静かめに！ずーっと健康でいて下さい。
加納 裕さん
- ・妻の誕生日にきれいなお花をありがとうございました。
大嶽 達郎さん
- ・結婚して37年になりました。
高須 洋志さん
- ・昨日8月1日は49歳の誕生日でした。スタッフも含め、皆さんに祝って頂き感謝感謝です。
鶴田 浩さん
- ・8月1日の誕生日も過ぎ、今日は卒寿を迎えました。社会に多謝。
江口 金満さん

出席報告

梅村昌孝出席委員長

会員65名 出席41名(出席計算人数50名)

出席率 78.8%

7月26日は補填により 96.4%

幹事報告

- ・次週8月9日(木)13:40よりヒルトン名古屋9階「ことぶきの間」にて第2回理事会を行います。

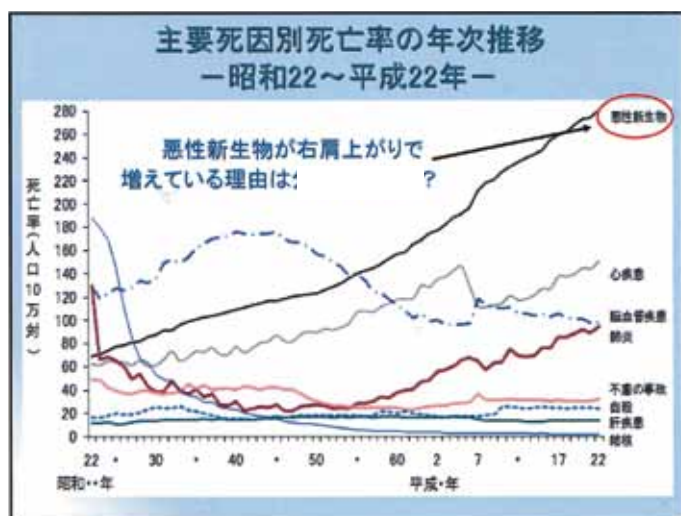
ガン予防とPET健診



今から10年前、当法人の名古屋放射線診断クリニックにて、PETを使った健康診断をスタートさせました。その後、がん撲滅を目指す愛知県はPET-CT検査を中心とした「検査診療施設」の事業を誘致し、民間から公募、厳正な審査を経て当法人が選定され、2008年1月15日に愛知県がんセンター中央病院隣接地に当院が設立されました。

毎年110万人以上の方がお亡くなりになられているうち、がんで亡くなられる方は35万人ほどです。心疾患、脳血管疾患と合わせて「三大成人病」と呼ばれ、全体の死因の6割を占めています。

死因別死亡率の年次推移を表したグラフを見ると悪性新生物(がん)のみが伸び続けています。理由として大きくあげられるのは生活習慣の大きな変化、超高齢化による社会環境の変化、医療技術の発展などです。現在は男女ともに2人に1人はがんになると言われています。しかし、不治の病と言われていたがんが今は治せる時代でもあります。そのためには備えと早期発見が非常に重要です。



がんの予防には大きく分けて一次予防、二次予防、三次予防があります。三次予防というのはがんになって手術を受けたあとの話になりますのでここではその前の段階までをご説明しましょう。一次予防とは危険因子、環境中の発がん物質、発がん促進物質を明らかにし、その抑制物質を調べた上で危険因子や発がん性物質、発がん促進物質などを除去し、がんを予防することです。二次予防とは定期的ながん健診を受診し、がんの早期発見・早期治療に心がけ、がんの死亡を予防することです。日常生活におけるがんの要因として一番多いのが生活習慣(たばこ・食事等)です。日本で発生するがんのほとんどは、いわゆる『生活習慣病』ですので、生活習慣を改善すれば必然的に予防もでき、極力その因子を少なくすることが可能です。

次に『PET(ポジトロン断層撮影法)』についてご説明します。PETとはpositron emission tomographyの略称です。人間の体は約60兆個の細胞から成り立っており、一つ一つの細胞がエネルギーを必要としていてその主なエネルギー源がブドウ糖です。健康な細胞もがん細胞も同じようにブドウ糖を必要としますが、がん細胞は通常の細胞より分裂が盛んに行われるので摂取するブドウ糖の量が健康な細胞の3～8倍となります。PET健診でははじめにFDGというブドウ糖に似た放射線が出る物質の含まれた薬を静脈に注射します。がん細胞にはFDGがたくさん集まるため、そこから放出される放射線をカメラで撮影し、それによりがんの有無や大きさを発見することができます。再発のチェックや転移の有無にも非常に有効的な検査です。

当院の症例の中には、他のPET施設で見つけることができなかったがんを、当院の検査や経験豊富な放射線科専門医の読影により発見することができたものもあります。つまりPET検査は、どこで受けても同じではないということです。

健康診断は健康維持や疾患の予防・早期発見に役立つもののな

で、症状がでる前、健康だと感じている今受けていただくこと、そして定期的な受診が大事なのです。早期がんでは、症状はまず出ないので、発見することが健診の役割です。健診の施設はたくさんありますが、画像を見るドクターの目や画像を作り出す技師の技術がとても重要です。今一度、ご自身が受けていらっしゃる施設や健診の内容を見直していただきたいと思います。

PETの施設は全国に約300ヶ所、名古屋市内には8施設ありますが、この中の全てがPETを使った健康診断を行っているわけではありません。また先ほどお話ししたFDGという薬も、自前で製造する施設と他で製造した薬をデリバリーしている施設とがだいたい半々です。自前で製造しますと、コストが押さえられたり、放射線被曝を低減することができます。

皆さんは先進医療の保険に入ってみえますか。放射線治療の中でも重粒子や陽子線といった治療には1回につき一連で300万円程の治療費がかかります。こうした治療を受けるため、先進医療の保険をつける方も増えているそうです。粒子線治療は、他の放射線治療と比べて照射による痛みが少なく、外科治療と比べ身体への負担も少ない為、高齢者でも受診が可能、傷あとが残らない、がん周辺の臓器を損なわない、早期なら根治可能、社会復帰までの期間が短いなど色々なメリットがありますが、最大の特徴は病巣にピンポイントに届いて効果を発揮するため、正常な細胞への影響が少ないということです。陽子線治療が可能な施設は全国に10ヶ所ほどあり、名古屋市でも来年3月に名古屋市立西部医療センターで治療が開始される予定です。

当院の健診の特徴は「高性能の画像診断機器を用いた複合的な検査の実施」「迅速で精度の高い特徴ある健康診断」「きめ細かな健康管理サポート」です。PET-CT単独の検査では万能な検査とは言えない為、必ずPET、CT、MRI、超音波を複合的にを行い、がんの早期発見に努めております。なお、当施設には放射線科専門医が複数名常勤しており、ダブルチェックを実施し、より正確な診断を行っています。また、当日に画像結果の説明を受けていただくことができ、1日で健康診断が完結します。そして、もしPET-CTで所見が見つかった場合、再検査を無料で行わせていただきます。これは他の施設にはないサービスであると自負しております。会員様ひとりひとりに担当がつき、健診前の説明から健診予約、結果のレポートを持参し、説明いたします。他にも年一回の健診や再検査のご案内、適切な病院のご紹介など、細かい部分のサポートを致します。

まずは定期的に健診をお受けください。そして万が一がんになったときのための備えとして医療情報や治療にどれだけかかるのかという

ことをしっかりと把握していただく必要があります。是非、長期的に皆様の治療をサポートでき、また信頼の置ける健康診断をご受診ください。



▲ 超高磁場
3.0テラスMRI



TrueV機能搭載
PET-CT

例会のご案内

■今週の卓話 8月9日(木)

会員卓話：川本昌市さん

テーマ：新入会員インシエーションスピーチ

■8月16日(木) R規定により休業

■8月23日(木) なごやか例会